

# 第一回日経ソーシャルイニシアチブ大賞 表彰式、記念シンポの参加報告

日時：2013.5.23(木)13:00～16:40  
場所：日経ホール

ソーシャルイニシアチブ対象：NPO、株式会社などの法人

- 社会性：社会的課題の解決を事業のミッションとしていること
- 事業性：ビジネス的手法を用いて継続的に事業活動を進めていること
- 革新性：新しい事業モデルや社会的価値を創出

380件以上の応募

大賞：	賞盾/賞金	100万円
国際部門賞：	賞盾/賞金	50万円
国内部門賞：	賞盾/賞金	50万円
東北復興支援部門賞：	賞盾/賞金	50万円

# 記念シンポジウム：テーマ 「ソーシャルビジネスが 社会を変える、企業が変わる」

パネリスト：グリー（株） 田中 良和氏

アクセンチュア（株） 伊佐治 光男氏

一般財団法人 ジャスト・ギビング・ジャパン 佐藤 大吾

氏

NPO法人 エティック 宮城 治男氏

司 会：明治学院大学教授 原田 勝広氏

## 記念シンポジウムに引き続き、表彰式

# ソーシャルイニシアチブ大賞

認定NPO法人フローレンス

■子育てと仕事の両立が当たり前の社会を目指し、日本初の「共済型・非施設型」の**病児保育サービス**を展開。

■現在、東京23区およびその周辺（千葉県、川崎市、横浜市など）の働く家庭約2000世帯をサポートしている。



代表理事 駒崎弘樹氏



病気の子どもは自宅を訪問して保育サービスをするNPO法人、フローレンス（東京・千代田）は7月1日から、保育所向けの病児保育の割安な新プランを始める。保育所が子ども1人あたり1050円の月会費

# 病児保育、割安に

## NPOのフローレンス



病児保育所は不足している（都内の施設）

を負担し、保護者は利用した場合のみ1時間1680円の保育料を支払う仕組み。保護者は通常の自宅プランより安価に病児保育サービスを利用できる。

フローレンスの保育スタッフが病気で保育所に通えなくなった子どもの自宅を訪問し、保護者の代わりに預かる。保育所内で発熱し、保護者が帰宅するまで自宅に迎え、小児科で受診して保護者が帰宅するまで自宅に面会をみる。

### 保育所向け新プラン 感染拡大のリスク軽減

保育所向けの新プランは、病気の有無にかかわらず預かる子ども全員分の月会費の支払いを保育所に求める仕組み。保育所の負担は増すが、フローレンスは保育所の需要は見込めるという。「保護者がすぐに迎えに来るのが難しい子どもを預かり続けることによる症状悪化や、他の子どもに感染するリスクを軽減できる」からだ。

また、保育所が自前で病児保育施設を運営するのに比べ、大幅に低いコストで病児保育を提供できるとしている。

フローレンスの通常プランの料金は、保護者が約8000円の月会費（初回利用は無料）に加え、1時間2100円の利用料を支払う。これに対し、保育所向け新プランの病児保育サービスの料金は、利用した場合に限り1時間1680円に抑えた。

また、保育所が自前で病児保育施設を運営するの

子どもを保育所に預けて働く親の最も大きな悩みは「子どもの急な発熱や病気」だ。病児保育施設は全国に850カ所と少なく、保育所全体の約3・6%にとどまるという。

# 国内部門賞：ケアプロ株式会社

- 一項目500円で受けられる「ワンコイン健診」サービスを開発。創業以来累計12万人以上の健診を実施。
- 健診は看護師が担当。受診者は看護師のサポートにより自己採血をする。予約も健康保険証も不要という気軽さで、診断結果は約1分から7分でわかるという早さも特長。
- 駅やサービスエリア、パチンコ店などの集客施設で出張して健診するイベントは、これまで全国で3000回以上実施



代表取締役社長 川添高志 氏



# 国際部門賞：

特定非営利法人TABLE FOR TWO

- **国際部門賞** 世界の人口10億人が飢餓・栄養失調に直面する一方で、14億人が肥満状態
- 世界の食の不均衡を是正するため、社員食堂を中心とした独自のプログラムを世界各国に広げ、開発途上国と先進国が抱える健康問題の同時解消を目指す、日本発の社会事業
- 企業や官公庁、大学、病院、飲食店など約550団体が参加し、2012年末までに1820万食に相当する寄付を集めた



# 東北復興支援部門賞

## NPO法人オンザロード

- 「石巻元気商店」オンラインショップによる、石巻および周辺地域の地場産品販売による復興支援事業。被災地における雇用支援・収入確保の一助として、Yahoo! JAPANが中心となり、2011年12月に復興デパートメントというインターネット総合百貨店を開設。
- そのなかに「オンザロード」として石巻およびその周辺地域の農産物や海産物、伝統工芸品などを販売するオンラインショップを立上げ。
- オンラインショップを持たない商店、生産者などの代わりに商品受発注、商品紹介、企画、Webデザイン、サイト上の商品CM作成の手伝いなどを行っている。





代表理事 高橋歩氏

YAHOO! ショッピング  
JAPAN

石巻元気商店



FUKKO DEPARTMENT

## 特別賞



公益社団法人AACジャパン

- 設立は1971年、提唱者は当時のサントリー社長佐治敬三氏
- 「環境汚染」「公共マナーの悪化」「人間関係の希薄化」など、景気上昇の陰で出はじめた社会のひずみに光をあて、「みんなで考えるきっかけをつくりたい、企業が少しずつお金を出し合い、世の中のためになるメッセージを広告という形で発信しよう」という呼びかけをしたことがきっかけ。
- 一般企業、メディア、広告会社がこれに呼応し、114の会員数で出発、現在では1000以上の企業が加盟、CMや新聞広告などで社会問題の解決を訴えている。



# 1972年、ACの前身である 関西公共広告機構が初めて出した広告



あのね 駅のホームで たばこのすいがらをポイと捨てた人がいるんです。私「ハッ」としました。だって向こうで駅員が掃いているんですよ。この人、気がつかないのかしら。鈍感ですね～

[http://www.youtube.com/watch?v=XbkfMonhR\\_w](http://www.youtube.com/watch?v=XbkfMonhR_w)

## 特別賞 藤原紀香さん



- 2004年から2007年にJICA(独立行政法人 国際協力機構)の『ピース・トーク・マラソン』に賛同し、写真展を日本各地で行い、人道支援の寄付募集などのチャリティー活動を行う。
- 2007年から日本赤十字社の広報特使に就任。現在7年目。2010年、自身のNPO「SmilePlease☆藤原紀香世界こども基金」を設立し、アフガニスタン・バーミヤン県に女子小学校、カンボジア・プレイベン県に小学校を建設。
- チャリティー写真展は、現在も継続中。その収益で、教員のトレーニングや子供たちへの教育支援活動、被災地や国際人道支援を継続中。2011年カンボジア・スワイリエン県に建設した二校目の‘NORIKA SMILE学校’の竣工式に参加。
- 東日本大震災の際もいちはやく被災地に入り、数多くの避難所を訪問。2013年4月に入ってから大槌町、南三陸町を訪問するなど、被災地訪問活動を継続している。